

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	沼津工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヌマヅコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立高等専門学校
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	学外実習
	学部・研究科等名	専攻科総合システム工学専攻1年生
	担当教職員名・役職	専攻科長・稲津晃司(物質工学科)
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	28
	受入企業等数	37
受入企業等名	株式会社イーグステクノロジーズ, 東芝キャリア株式会社, 中村建設株式会社, 株式会社浜野製作所, 株式会社明電舎, リコーインダストリー株式会社, JAXA, 豊橋技術科学大学, 名古屋大学大学院工学研究科, 株式会社リコー, 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構, 国立金烏工科大学(大韓民国), 東北大学大学院工学研究科, 東京工業大学化学生命科学研究所, 株式会社イーグステクノロジーズ, ケイ・アイ化成株式会社, 東芝キャリア株式会社, 株式会社ホクレア・システムズ, 横浜ゴム株式会社, 国立研究開発法人物質材料研究機構, 長岡技術科学大学, 東京医科歯科大学	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ 4.国際機関でのインターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	すべての受入先企業で実際の業務や課題解決について就業体験を行う。また、大学で実習を実施する場合は先端研究を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	4.当該インターンシップは、必修科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	専攻科1年生
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	11単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	専攻科1年生を対象に4か月程度のインターンシップ(必修科目、11単位)を実施している。長い実習期間を確保することで就業意識の形成、適職の確認、学校での学習意欲向上、専攻分野の知識向上等を旨とする。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	

	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習開始までに2回の研修を実施している。さらに、各研究室において事前教育を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	中間段階と終了後に企業内でのプレゼンテーションや報告会を行うことが多い。また、学内でも同様に2回の報告会を実施し、専攻科担当の教員を含む数名の教員数名が評価する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	研究指導教員が企業担当者と調整する。実施後には企業から評価書をしていただいている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	実習内容をまとめ、報告会にて発表している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業等に学校指定様式での評価をいただき、その内容をもとに指導等の改善を実施する。また、報告会において教員および企業の方との質疑を行い、評価する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間4か月以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間1か月以上
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ひとつの実習先で1か月以上の実習を実施する。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習後に、本校書式の評価書を受入企業の実習担当者に作成いただき、学内での報告等とあわせて評価する。最終報告会には、企業の方にも案内を出し、可能な範囲で参加していただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=22&department_id=21&subject_code=742&year=2013
問い合わせ先	大学等名	沼津工業高等専門学校
	担当部署名	学生課 教務・入試係
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	影山訓子
	電話番号	055-926-5732
	メールアドレス	kyoumu@numazu-ct.ac.jp